

令和6（2024）年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

本校独自の個別・協働・プロジェクト型を融合した学びや探究プロジェクト型の学びを通して、生徒のキャリア発達と希望進路実現を促し、未来社会を築く基盤となる力を身につけた「人財」の育成を図る学校

2. 中期的目標

1. 安定的な志願者の確保につながつブランド力の向上
地域の中学校や塾との関係を強化、及び新たな広報活動に着手するとともに、本校独自の教育の推進のもと、進学実績の向上を図る。また本校独自の教育内容の魅力を広く発信し、社会的評価の向上を図る。
2. 多様な進路選択のためのプログラムの構築
生徒の自己肯定力の向上を図る様々な取組を企画し、生徒個々に応じた多様な進路の実現を図る。
- ①追手門教育の徹底と発信
②個に応じた進路指導
③中・高生徒募集の安定
④安心安全な学校づくりの継続的推進
⑤働き方改革の継続的推進

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2024(令和6)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
○生徒 ・昨年度に引き続き、高い評価をキープしている。8項目において、過去5年間で最も高い評価となった。 ・「情報発信」「より良い友人関係」「安全な学校生活」は極めて高い評価を維持している。「情報発信」は、内部広報も意識したHPでの記事投稿が増えたことと、若年層を意識したInstagramの活用がプラス評価となったと考えられる。 ・前年度落ち込んだ「学校行事」が大きく改善した。特に体験旅行の選択肢に海外(スリランカ)を入れ、それに対する満足度が高かったからと考えられる。 ・「本校満足」と「総合学園長所」もポイントを伸ばした。他の項目の評価が上がった結果として、この項目の評価も上がったと考えられる。 ○保護者 ・保護者の学校推薦度はここ数年、高い評価で安定している。今年度は特に高校での評価が高かった。 ・昨年度に引き続き「安全な学校生活」「情報発信」「事務室対応」が高い評価となった。 ・昨年度評価が低かった「学校行事」「クラブ活動」の満足度に改善が見られた。学校行事は高校の体験旅行での満足度が高く、その影響が大きいと考える。クラブ活動では、新しい体制が浸透し、保護者の理解も進んだことが考えられる。	○中学入試では、3年連続で定員充足の見通しであるが、その要因は何か？ ⇒個別指導の塾からも大手塾からも志願者数が増えている。その前段階で、各入試関連イベントへの参加者数が増え、小6だけではなく、小4・小5の児童とその保護者の参加も増えていて、本校の特徴的な学びの在り方が評価されていると考えられる。 ⇒高校からの「高校無償化」政策の前倒しの影響が中学入試にも出てきていると考えられる。 ○高校入試も堅調だが、施設等は大丈夫なのか？ ⇒高校入試においては、専願志願者数が増えており、内部進学者も今後増えるので、入試のライン設定は慎重に進める。一方で、高校の学則定員を学年あたり400人から440人に増やすことを大阪府から認可された。選択教室を普通教室化して対応しているが、これ以上に人数が増えて教育環境が悪化することがないように対処していく。 ○アンケートで評価が低かった学校行事のことが少し気になる。 ⇒左の欄に記述した通り、改善されてきている。 ○「安心・安全な学校」の項目は学校の根幹なので、毎年評価が高いのは良いことである。子どもたちは先生の話をも素直に聞くことが多い。基本的には学校にお任せして大丈夫だという安心感がある。 ⇒学校としても強く意識していることであり、生徒にも協力を呼び掛け、そういう学校を作っていこうと訴えている。

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 追 手 門 教 育 に よ る 学 力 向 上	・現在取り組んでいる、校舎の特性を活かした「個別型・協働型・プロジェクト型の3つの学びの融合」と本校独自の探究「O-DRIVE」の発展と充実 ・創造コースにおいて様々な経験・体験から始まり好奇心や興味関心につなげ、振り返りから得た発見や気づきを基に、協働・探究の学びを通して深めていく「探究的な教科の学び」を実践 ・教科で学んだ知識や視点を活用し、プロジェクトを通して結び付け、あらゆるものの見方、考え方をし、価値観を広げる「探究プロジェクト型の学び」を実践 ・上述の内容を積極的に学内外に発信していく。	(1) ・研修と内部広報、採用計画も含めて、3つの学びの融合と創造コースの学び、探究授業の3つを拡張するための教員体制作りと個々の教員の授業改善の推進。 (2) ・創造コースの学びの実践とブラッシュアップ、探究の各学年PJの充実を図る。 (3) 探究メディアやSNSでの発信の充実と、中学と高校のTW入試の充実を図ることで、本校の知名度を上げ、教育の取り組みやその魅力と成果を広く発信していく。	(1) ・教科会議、教科主任会議での研修・対話の実施 ・教科主任会主催の授業研修開催 ・授業アンケート、学校評価アンケート (2) ・教科横断授業の計画と実践 ・授業評価アンケート ・学校評価アンケート ・創造コース入学者数 (3) ・HP閲覧数、投稿数 ・学校評価アンケート ・学外からの教育視察数 ・中・高TW入試受験者数 ・入学者・非入学者アンケート	(1) 昨年度からの教科主任会主催の研修の形式を継続し、年間7回の独自研修を実施できた。教科の枠を超えて、本校に合った形の授業の実践について情報共有し、学びを得た。一方で、外部講師をお招きしての全体研修も2回実施できた。 (2) 創造コースの独自の教育内容と、その評価について、3学年分の流れが整った。高2において、体験旅行中の期間をプロジェクトウィークとして設定し、期間中のすべての授業をプロジェクトにあてて取り組んだ。学校評価アンケートにおいても、学習習慣と進路生き方の項目で目標を大きく上回る結果が出ている。 (3) HPをリニューアルし、記事の投稿数も月に20件以上のペースを維持できた。今年度は以前より導入していたInstagramにも力を入れ、在校生を含めて、若年層のファンを獲得できるようになった。教育視察の数は年間で50件を数え、2年続けて多くの方にご来校いただいた。入学者・非入学者アンケートにおいても、教育内容についての評価は高かった。
2 個 に 応 じ た 進 路 指 導	・データ分析と情報収集に基づく手厚い進路指導・面談を実施 ・生徒・保護者の欲しい情報を適切に配信することにより、進路指導に対する生徒・保護者の学校への信頼の向上 ・各種進路説明会や進路イベントの充実	(1) 大学入試の大きな変化について生徒・保護者に周知し、生徒の第一希望の進路実現につなげる。タイムリーで手厚い面談の実施 (2) 生徒・保護者目線での情報発信、進路の指針等の手引きの継続的発行と低学年向けのデータ作成 (3) 各種進路説明会や進路イベントの充実	(1) ・生徒・保護者との面談 ・学校評価アンケート ・共通テスト受験者数 ・第一希望進路実現生徒数 (2) ・進路の指針作成 ・低学年向け進路の指針作成 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現 (3) ・生徒・保護者向け進路説明会の実施 ・学校評価アンケート ・イベント参加者数	(1) 大きな大学入試の変革の年であったが、進路指導部主導の進路指導が充実している状況である。一方で、生徒に生き方を考えさせるキャリア教育の面でも、学校評価アンケートで生徒・保護者共にその満足度において、目標を大きく超える成果を出すことができた。 (2) 進路の指針は、1学期に予定通り刊行できた。共通テストでの大きな変更点があったが、生徒・保護者に適切な情報共有ができたことで、例年以上に対応ができた。第一志望での進路実現も例年並みに成果を出すことができた。 (3) ここ数年定着している保護者対象の進路説明会も多くの保護者に参加していただいて実施できた。参加いただけなかった方への動画配信なども継続して行っている。また、「進路だより」については、例年の2倍以上の25回発行することができた。
3 生 徒 募 集 の 安 定	・公立中学校および塾との良好な関係構築と維持を基盤とし、徹底した情宣で入試関連イベントの動員強化 ・積極的なイベント開催内容で参加者の志願度を高める。 ・HP・SNS・動画などのWebを活用した洗練された広報活動を展開。	(1) 公立中学・塾への訪問を通じて、良好な関係を継続する。 (2) イベントの内容の見直しを進め、確実に動員数増・志願者増につなげる。 (3) Webを通じた募集広報・教育広報の両面の強化。ファンベースでの広報活動の強化。	(1) ・公立中学訪問数 ・塾訪問数 ・本校からの出前授業実施数 ・入試志願者数・入学者数 (2) ・入試イベント動員数 ・志願者数・入学者数 ・毎年のアンケート調査結果のイベント内容への反映 (3) ・HPのリニューアル ・HPへの投稿回数 ・イベントや入学者・非入学者アンケートの結果 ・イベント動員数 ・志願者数・入学者数	(1) 公立中学校訪問の対象の158校に対して、年2回の訪問を実施した。地域の地域については、追加の訪問を実施。出前授業は13校で目標達成したが、回数は少し抑え気味にした。塾への訪問はイベント参加者がいる教室への訪問を重視した。中・高ともに多くの志願者を獲得し、募集定員を充足できた。 (2) 中学・高校とも、各種イベントで安定した動員数を確保できた。また、イベントの内容だけではなく、Web関連での発信内容に対する評価も向上し、この数年取り組んできたファンベースの活動が成果としてあらわれてきていると評価している。高校で515名、中学で87名の入学者を得られた。 (3) HPのリニューアルによって、さらに広くファンを獲得してきている。募集広報・内部広報・教育広報の3分野を強く意識し、すべての分野でファンを増やすことにつながっている。HPだけではなく、Instagramへの投稿も、在校生や受験生向けの内容を工夫し、フォローワー数が昨年度までの1.7倍程度にまで増え、有効な広報の手段となっている。

4 安心・安全な学校づくり	・リスクマネジメント・クライシスマネジメントの体制の継続的整備 ・人権・厚生部を中心とした生徒指導問題の取り組み、生徒情報の共有方法の整備	(1) 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を対話を通して検討、必要に応じた具体的なルールの見直しや生徒会組織の変更 (2) 法人内での制度整備、学外関係機関との継続的な連携 (3) 人権・厚生部と各学年、管理職との連携強化 ケース会議、いじめ対策委員会の積極的開催	(1) ・教員間・生徒間・生徒と教員間の対話 ・生徒指導部主催の教員研修の実施 (2) ・スクールロイヤー相談 ・初等中等部との連携 ・部長・主任会での情報共有 (3) ・問題行動・処分案件の件数 ・学校評価アンケート	(1) 生徒を巻き込んだ取り組みが進んだ。全校生徒から声を聴き、生徒会役員がそれらを整理して、ルール変更が実現できた項目があった。担当教員と課題に対する意識を共有できたので、時間をかけても、ルールに関して対話を続け、民主主義の制度の下でルールを決めていくプロセスを学ばせる。 (2) 学内の課題について、スクールロイヤー相談を積極的に行った。いじめについての研修会を開催し、いじめの定義の再確認や、いじめについての認識を変えることを学んだ。また、行政的な手続等については、法人内機関にも関わってもらうことで、迅速に対応できた。 (3) 学校評価アンケートの安全な学校生活という項目では、今年度も継続して生徒・保護者共に高い評価であった。ケース会議やいじめ対策委員会の積極的開催ができるようになり、管理職とも一体となってリスクマネジメントを行う体制が継続的に強化されてきているが、法によるいじめの定義を教員・生徒・保護者の間で正しく共有し、適切な対応が迅速に行えるよう、対策委員会等の運営をさらに改善していく。
5 働き方改革の継続的推進	・土曜休業の運用体制の整備と労務管理 ・ICT等の活用による、会議・業務の効率化 ・外部組織との協働による制度改善	(1) 土曜休業の本格的な制度運用 (2) ICT活用での、さらなる業務効率化、外部組織とのコラボによる制度改革推進 (3) 新制度下でのクラブ運営の在り方の継続的検討	(1) ・土曜休業制度の運用 ・イベントの運用体制見直し ・継続的な課題の洗い出し (2) ・学習推進部・教務部からの具体的な提案 ・学内における研修会実施 ・新たな教務の成績処理システムや採点システムの採用 (3) ・一般社団法人との対話 ・部活指導員・クラブ顧問としての業務の整理、部活動指導員の制度整備 ・生徒へのクラブアンケート	(1) 土曜日にイベントが設定されている場合も、一部の教員に過度の負担がかからないように、イベント運用の方法を工夫した。完成した制度ではないと捉えているので、毎年改善を続ける姿勢で臨めている。 (2) 新たなシステムにより、業務の効率化が図られた一方で、新しいシステムに慣れずに、逆に時間がかかってしまう面があった。時間短縮だけを考えるのではなく、作業の効率化を図ることで、点検等ミスを発生させないための工夫をさらに進めていく。 (3) 新制度運用の初年度は、学校評価の保護者の評価が低下したが、今年度は改善した。生徒の評価は、アンケート結果から満足度が高いと評価できる。委任先の一般社団法人とは対話を重ね、良好な関係を継続できている。教員の部活指導員とクラブ顧問の仕事の内容を年度初めに再確認しておく必要がある。